

令和5年度 朝来市立(枚田小)学校 学校評価

学校教育目標

ともに学び ともに育つ
～聴き合い つながり合い
学び合う力の育成～

総合的な学校関係者評価

・創立150周年記念事業の取組が地域の中の学校の存在の大きさを感じた。式典での全校合唱など、伝統ある枚田小学校を再認識できた。また、記念事業を通じて例年に比べ地域の方々との交流の機会が多い、非常に有意義な一年だったと思う。
・地域の子どもの様子を見守りとして見守っていただくことが大切。
・言葉使いや挨拶への意識が低い児童が増えてきているように思う。また登下校における上級生が下級生を見守るといった意識の低さも、保護者アンケートにも不安が表れている。時代の変化はあるが、人間としてのモラルやマナー、上下関係についての認識は、子供たちの成長に必要な不可欠だと思うので、是非力を入れて指導していきたい。

自己評価 達成状況 (A: 達成している B: 概ね達成している C: あまり達成していない D: 達成していない)

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	B ・学級、学年通信、学校だより(月2回)を定期的に配信し、学校の様子を伝えることができた。 ・HPについて後半更新が滞ったので改善したい。	・地元の学校、子どもという意識が住民にも低下し、無関心になる傾向が強くなっている。 ・和田山自治協議会でもHPやSNSの立ち上げを検討し、小学校との連携を強化したい。
		学校運営協議会活動の充実	A ・学校運営協議会だよりも発行も軌道に乗り出している。 ・学校の教育活動への参加の機会を増やし活動することができた。 ・地域スタッフの確保が課題となっている。	・クラブ活動への参加は児童理解に役立った。 ・地域で子供たちを見守り育てる雰囲気高めめる必要がある。 ・学校だよりやゆうこうさんPART2の通信も続けていきたい。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A ・児童理解生活面での情報共有や共通理解の下での指導を行い、学校全体が落ち着いた雰囲気生活することができている。 ・自分の居場所があるという安心感が持てる学級経営に全職員で取り組んだ。	・全体的に落ち着いた学校生活を送っている。 ・担任や教科担当以外の先生にも「枚田小学校の自分たちの先生である」という親しんだ感覚を持ち、子どもたちから関わっていきける安心感のある環境が望ましい。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A ・週末のAMロカフェで生活面を中心に情報共有をし児童理解に繋がっている。 ・あいさつや言葉遣いの課題が職員、保護者評価にもあがっている。今後重点課題とし取り組むたい。	・下校時の様子が気になる。 ・車で道を譲ると低学年の児童があいさつをしてくれたことが印象深かった。 ・人間としてのモラルやマナーなど子どもの成長に必要な不可欠な力で力を入れて指導してほしい。
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A ・担当を中心に不登校未然防止プログラムに取り組むことができた。 ・児童支援やスクールカウンセラーとの連携を強化したい。 ・朝の生活(生活リズム)を大事にするための家庭との協力体制を作る。	・危機管理について、SNSの怖さなどネットリテラシー教育を充実していただきたい。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B ・災害時対策として個人マニュアルを作成し、自分の役割や任務について確認、全体共有をし、避難訓練等にも役立てることができた。	・今回の震災も含め、一層災害に対しての防災教育を充実してほしい。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B ・様々な災害に対しての引き渡し訓練や避難訓練は行っているが、異常気象などの緊急時にも対応できるよう、職員間の連携を強化し、状況に応じた動きができるように備えたい。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A ・特別支援教育コーディネーターを中心に、適切な就学指導に向けて子ども園や保護者との連携を進めることができた。 ・個別の教育支援計画、指導計画の作成からの効果的な活用を推進したい。	・同じ学年でもクラスによって雰囲気も違う。一人一人が生かされるような指導体制、集団作りをお願いしたい。
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	A ・養護教諭を中心に児童の安全な学校生活を守るための対応を心がけた。 ・常に最新の情報をもとに児童の健康管理を心がけた。	・登下校の安全管理において、学校に無事に到着したかを保護者が確認できる方法があればよいと思う。メールサービス等。
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A ・創立150周年事業に向けて、伝統文化や歌唱指導、絵画など、地域の人材を活かした学びができ、地域に開かれた学校づくりへの一歩となった。	・地域探検や校外学習は学校を身近に感じる良い機会だった ・教師以外の人材活用や協力者の獲得も限界が見られる。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	A ・発表の仕方、学習規律などを共有し、ディベートや討論などを取り入れるなど、授業改善に取り組んだ。アンケートで児童が「話し合う授業が楽しい。」という回答が増えた。	・参観日等では、先生方が趣向を凝らし、児童が興味関心を持って取り組める努力が見られた。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B ・がんばりタイムでの個別指導は成果として大きい。 ・児童の様子や職員の自己評価から、計算力の向上や家庭学習の工夫が課題になっている。	・昨今、子供の将来の選択肢が多様化している。初等教育における児童への教育の在り方が、教育課程との関係で困難を極めている実情は、部外者でも察することができるが、教師以外の人材活用や協力者の獲得にも限界がみられる。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	A ・道徳教育研究大会に向けて「心が響き合い、ともに育つ道徳教育の推進」に取り組んだ。児童と一緒に考え「自分事」として自己の道徳的価値を温める授業作りを意識することができた。	・道徳研究大会はとてもよい取組だったと思う。 ・更に道徳教育の充実を図ってほしい。
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B ・一人1台のタブレットには児童も慣れ使うことができている。授業の中で、効果的なタブレット活用の検証が必要。基礎基本の定着に向けて家庭への持ち帰りを推進したい。	・経済について学ぶ機会やタブレットをさらに活用した授業の取組を考えてほしい。 ・固定観念にとらわれず児童の疑問や関心を掘り下げていく活動をICT等を使い進めてほしい。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B ・道徳の広場、人権標語、ふわふわ言葉等、全教育活動の中で人権意識の向上に向けた取組を行っている。 ・新たな人権課題に対応し、職員が積極的に講演会へ参加したい。	・人権意識を高めるためさらなる充実をお願いしたい。 ・世の中がハラスメントに対して厳しい目が向けている。先生方も含め、言葉遣いや意識の共有をお願いしたい。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A ・4年ぶりに宿泊を伴う自然学校が実施できた。コロナ禍で集団生活に慣れない面での課題も含め、更に爽やかな体験活動につなげていきたい。 ・地域に開かれた学校づくりとして地域人材の発掘を進めたい。	・他地区には先人による人や家族を思い、慈しむ心を育てる題材がある。枚田小学校区にもそのような題材がないか探って学習する機会も必要ではないか。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A ・栄養教諭と連携した食育指導は大きな成果となっている。児童が食を通じて健康づくりを意識する機会を多く持つことができた。 ・朝の生活や朝ごはんの大事さを不登校未然防止プログラムにも取り入れてたい。	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B ・中学年の給食センター見学をはじめ、様々な体験学習等がコロナ対策緩和により実施できるようになり、学習の視点が広がりがキャリア教育につながっている。 ・自分自身の振り返りや将来への夢など、今後の自分を考える時間をもちたい。	・和田山地域自治協議会の協力や土曜チャレンジなど、学校外での体験学習の機会が増えている。 ・今後も想像もできなかった職種が生まれてくる時代の中、キャリア教育の一環として子どもたちがいるような疑問や質問に対して調べ振り下げる授業を取り入れてほしい。
その他	・主体的に考え、議論したくなる授業づくりをめざして	A ・道徳科の授業を中心に、自分の考えや思いを共有し、深める活動を研究している。 ・児童の表現力を育成する手立てとして、発表の仕方や学習規律などに全校共通に取り組んだり、大勢の前での発表の機会を設定したりしている。	・大規模災害が頻発してきており、これからの子供達にはこれまで以上に他人の苦しみを理解すること、思いやりの心が必要となってくると思うので、道徳教育には今後とも力を入れて頂きたい。	